本報告書は、「やまぐち」からの情報発信、交流・創造へのプロセスと題して、平成26年度事業活動を体型系にとりまとめたものです。

そこには、多くのアーティストとの関わり、作品紹介を通した人々の交流・対話、様々な反響と新たな感動など、この山口の地から発信できた、ひとつひとつの成果があります。

今後も、この施設でさまざまな人々が出会い、対話し、新たな情報芸術の創造と発信の拠点となることを目指し、事業展開を図ってまいります。

ご覧いただき、ご感想、ご意見などをお寄せいただければと思います。

また、この場をお借りして、事業に関わってくださったアーティスト、ボランティア、体験・参加者、観劇者等すべての方々に、深く感謝申し上げます。

平成27年9月
山口情報芸術センター
館長　足立　明男

目　　次

平成26年度山口情報芸術センター収支決算 …… 2

平成26年度山口情報芸術センター事業概要 …… 3

［1］アート …… 4

［2］パフォーミングアーツ …… 12

［3］教育普及 …… 16

［4］シネマ …… 20

［5］主な貸館事業 …… 25

［6］施設利用状況 …… 25

［7］その他特記事項 …… 25

主な関連新聞記事 …… 27

(参考資料)山口情報芸術センターの活動成果 …… 37

平成26年度 山口情報芸術センター収支決算

山口情報芸術センターの収支決算は、施設維持管理費と自主事業費に大別されます。
自主事業費は、次頁からの事業実施経費で、当財団会計処理規程によるものを各事業体系に合わせ整理、表現したものです。

1　施設維持管理費

（支出の部）

科　目	決算額(円)
施設費	183,684,011

*主な支出は、
①市立図書館を含めた施設全体に係る電気･ガス･上下水道の光熱水料費（54,266千円）
②施設全体に係る清掃･空調設備等保守業務委託料、スタジオに係る舞台機構等の保守業務委託料などの保守管理経費（84,152千円）です。
*この財源は、山口市からの施設管理運営委託料、雑収入です。

2　自主事業費

（収入の部）

科　目	決算額(円)	備　　考	構成比(%)
チケット収入等	5,746,200	演劇・ダンス等公演・映画に係る入場料収入	2.2
助成金収入	17,819,448	文化庁、資生堂等による助成金	6.7
雑収入等	5,222,901	ワークショップ参加料、カタログ等販売手数料、寄付金等	1.9
補助金等収入	238,326,946	山口市からの自主事業実施係る補助金、委託金	89.2
合　計	267,115,495		100

*チケット収入は収入全体の2.2%ですが、演劇等公演のチケット料金の安価設定やアート事業展覧会の入場無料など、鑑賞機会の創出に主眼を置いた取り組みをしています。

（支出の部）

科　目	決算額(円)	備　　考	構成比(%)
人件費	126,753,406	市派遣職員・専門員・副専門員・常勤職員等の人件費	47.5
アート	40,440,327	アート企画展等に係る経費	15.1
パフォーミングアーツ	31,079,457	ダンス・パフォーマンス公演等に係る経費	11.6
教育普及	29,380,519	ワークショップ、レクチャー等に係る経費	11.0
シネマ	16,061,605	シネマ上映等に係る経費	6.0
共通事業費等	23,400,181	広報費、研修費、アーカイブ、旅費等の共通経費	8.8
合　計	267,115,495		100

平成26年度 山口情報芸術センター事業概要

1　事業の方向性　～地方発信の時代へ ― <場>と<オリジナル>を重視する～

山口情報芸術センター〔YCAM〕は、メディアテクノロジーと身体をめぐる新しい芸術表現活動を追求する複合的文化施設です。身体表現の場であるシアター［スタジオA］、アート作品を製作･展示できるアートホール［スタジオB］、コンピュータによる作品制作が可能なラボ［InterLab／専任エンジニアが所属］が融合された、世界的にも稀な機能を有した施設です。

YCAMでは、アートの現場に参加する文化体験を通じて、理解発見力、分析力、表現力を伸ばすための、真のコミュニケーションの<場>を創りだすことに挑戦しています。そのために、従来の「展示･保存型」の文化施設ではなく、「この場で考え、コミュニケーションし、共同で作り出そう」という「制作･発信･コラボレーション型」の創造的文化環境づくりを目指しています。その中で新しい発見や共同作業の喜びを体験してもらうことを期待しています。

YCAMの事業は、<アート><シアター><教育･普及>を3つの柱としています。各分野とも施設の複合的特性を生かした、他の施設では生み出せないオリジナルのプロダクション（制作）を重要視し、地方から世界へ「オリジナルソフト」の発信を積極的に行っています。その成果は、すでに数々の国際フェスティバルでの受賞をはじめ、国内外からの数多くの展示･公演の招聘依頼などによって評価と信頼を得ています。情報共有だけでなく、文化施設どうしのオリジナルソフトの交換から生まれる国際的信頼の蓄積は、YCAM＝山口市に新たなブランド力を生んでいます。また、日本の新しい人材･発想を世界に紹介することにも寄与しています。

YCAMの事業を通じて、世界的な創造的才能（アーティストや情報技術関係者）が訪れる<場>を山口市に作りだすことで、有形･無形の文化的蓄積が可能になるばかりでなく、新しい形の地域還元も目に見える形になっています。例えば、アート作品で開発利用されたコンピュータプログラムやアプリケーションソフトが、ラボの活動を共有することで、別の分野の教育材ソフトの開発に応用され、オリジナルの情報教育教材を生むケースなどです。これらは、データソフトの提案だけでなく、ワークショップの形で施行するパッケージツールとしての現場普及の側面もフォローし、地元地域へのさまざまな形での情報技術･リテラシー教育を還元していく「THINK GLOBAL, ACT LOCAL」を現実的に成功させています。このような形で生み出されたYCAMオリジナルソフトは、地元だけでなく、国内の他の地域の教育関係施設からも高い関心を寄せられています。

2　事業の概況

山口情報芸術センター〔YCAM〕は、開館11年目を迎え、2014年3月に入館者数800万人を超えました。

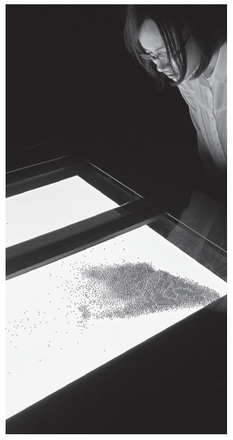
2014年4月には、開館以来培ってきた地域との連携事業や情報環境整備の実績を生かし、センター内部の人材で組織されるInterLab内に「地域開発ラボ」を立ち上げ、この領域での幅広い国内外の人材ネットワークの形成や情報発信、またYCAM InterLabが研究開発してきたメディア･テクノロジーに関する技術の蓄積を実践的に地域社会へ還元していく試みを行ってきました。その主な活動として、市民参加型の展覧会「MEDIA/ART KITCHEN YAMAGUCHI―地域に潜るアジア:参加するオーブン･ラボラトリー」や、地域プランナーを育成する3日間集中ワークショップ「RADLOCAL “地域×メディア”」を開催するなど精力的に事業展開を行いました。

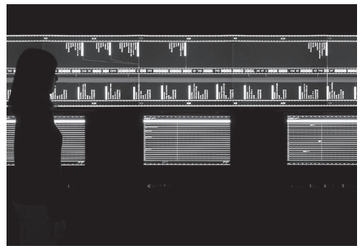
その他にも、ル･リュー･ユニック･ナント芸術センターと共同制作した、日本を代表するアーティスト池田亮司による新作インスタレーション「supersymmetry」は、フランスやロンドン、ドイツで巡回展示が行われ、日本のメディアアートを国際的にPRする事業となりました。

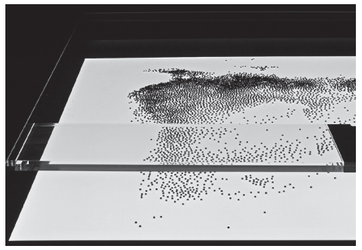
3　各事業総括表

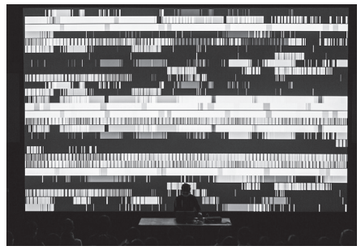
事業区分	事業数	入場者数（人）
［1］アート	7	47,993
［2］パフォーミングアーツ	5	883
［3］教育普及	4	22,590
［4］シネマ	18	6,022
［5］貸館（件数）	35	5,909
合　計	69	83,397

*事業区分･事業数の詳細については、次頁からの個別事業(実施月順)の内容をご覧下さい。









1　「池田亮司 "supersymmetry"」新作インスタレーション

1※　〔関連〕ライブパフォーマンス "supercodex〔live set〕"

1　「池田亮司"supersymmetry"」新作インスタレーション

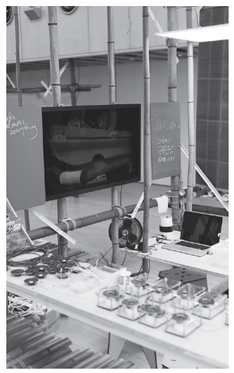
開催日時:4月2日（水）～6月1日（日）（火曜除く）10:00～19:00
会場:YCAMスタジオA、スタジオB
入場者数:3,484人／スタジオA、3,662人／スタジオB（入場無料）

日本を代表する電子音楽作曲家でアーティストの池田亮司によるYCAM委嘱作品第3弾となる新作インスタレーションをル・リュー・ユニック・ナント芸術センター（フランス）との共同制作の元、世界で初めて発表しました。
今回の新作インスタレーションは、2012年初演のパフォーマンス作品をベースに、完全な新作として構想したもので、量子力学や量子情報理論を美学的な視点から解釈し、池田の得意とするデータ観測表現の限界に迫ろうとする野心的な作品です。大規模なスケールで展開する、高速度で緻密な音響と映像は、鑑賞者を圧倒し、物事の成り立ちや世界像について深い洞察をもたらしました。
なお、本作はYCAMでの初公開の後、フランスのナント市で巡回展示されたほか、2015年4月24日～5月31日にイギリスのロンドンで、2015年6月21日～8月21日にドイツのカールスルーエでも巡回展示が行われており、日本のメディアアートを国際的にPRする機会となりました。

【関連】ライブパフォーマンス"supercodex［live set］"

出演:池田亮司
開催日時:4月19日（土）19:30開場／20:00開演
会場:YCAMホワイエ
入場者数:275人（入場料2,000円他）

2013年、5年ぶりに池田亮司がリリースしたCD "supercodex" のライブセット。昨年10月に東京でプレミアを迎えて以来のパフォーマンスとなりました。



2 MEDIA/ART KITCHEN YAMAGUCHI—地域に潜るアジア：参加するオープン・ラボラトリー

2 MEDIA/ART KITCHEN YAMAGUCHI—地域に潜るアジア:参加するオープン・ラボラトリー

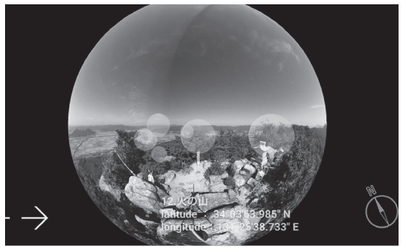
参加アーティスト:バニ・ハイカル、HONF Foundation、ヴェンザ・クリスト、オペラシ・キャッサバ、田村友一郎、YCAM地域開発ラボ
開催日時:7月5日(土)〜9月28日(日)〈火曜除く〉10:00〜19:00
会場:YCAMスタジオB、ホワイエ、2階ギャラリー他
入場者数:28,863人(入場無料)

アジアの若手アーティストの地域社会に根差した取り組みを紹介する市民参加型の展覧会を開催しました。
本展は2013年に、日・ASEAN友好協力40周年記念事業の一環として、東南アジア4ヶ国で開催された国際交流基金主催の展覧会を出発点に、YCAMがコミュニティ・デザインの視点から発展させる関連企画で、日本のほかインドネシア、シンガポール、マレーシアからアーティストが参加しました。会場にはアーティストごとに「ラボラトリー」と呼ばれる空間が設けられ、ここを起点に市民との対話を通して農業や林業、歴史、文化といった地域固有の課題と資源についてリサーチをおこない、随時開催するワークショップなどを通じてメディアやアートによる生活の新しい可能性を描き出すための実践を展開。山口市民と多様な文化的背景を持つアーティストたちとの出会いと協働を促す本展は、山口の創造的なコミュニティを新たに生み出しました。

【関連】ワークショップ

講師:YCAM InterLab
開催日時:7月12日(土)〜9月27日(土)のうち15日間
会場:YCAMホワイエ
参加者数:118人(参加無料)

「地域開発ラボワークショップ」「コロガルファクトリー」「オリジナル提灯づくりワークショップ」「おとなあそびばミーティング」といった4種類のワークショップを開催しました。



3 ムン・キョンウォン +YCAM「プロミス・パーク・プロジェクト［リサーチ・ショーケース］」

4 sound tectonics #14「大友良英FENオーケストラ／アジア・イクスプロージョン」

4※ 〔関連〕トークイベント

3 ムン・キョンウォン +YCAM「プロミス・パーク・プロジェクト［リサーチ・ショーケース］」

リサーチ:ムン・キョンウォン、原瑠璃彦、千年村プロジェクト（千年村運動体）、YCAM InterLab
開催日時:2014年11月1日（土）～2015年1月11日（日）〈火曜除く〉10:00～19:00
会場:YCAMホワイエ
入場者数:11,080人（入場無料）

韓国のアーティスト、ムン・キョンウォンとYCAMが2013年から継続的に展開しているプロジェクト「プロミス・パーク・プロジェクト」の研究過程の成果展示を開催しました。
このプロジェクトは、近代化によって成立する既存の社会システムが、大災害の発生により崩壊してしまった近未来の都市を想定し、そこにおける「公園／庭園」の形態と意味を構想・提案するものです。このプロジェクトを通じて、人類が持ち得る自然観や都市観、そして公共性について考えました。
本展ではYCAMを中心に、多領域から招いたゲスト・リサーチャーと共同で行った山口市の過去・現在・未来の公園についての研究をその過程も含めて発表したほか、これまでYCAM InterLabが研究開発してきたテクノロジーを中心にデモンストレーションを公開しました。
なお、本リサーチ結果は2015年度にYCAMで制作する新作インスタレーション作品と合わせて、大規模な展覧会へとアップデートをおこなない、発表します。

4 sound tectonics #14「大友良英FENオーケストラ／アジア・イクスプロージョン」

出演:大友良英FENオーケストラ（大友良英、ユエン・チーワイ、ヴェンザ・クリスト、ブー・ニャット・タン、バニ・ハイカル、ヤン・ジュン、リュウ・ハンキル、dj sniff、Sachiko M、米子匡司）
開催日時:8月2日（土）、8月3日（日）14:00開演
会場:YCAM全館（8月2日※図書館除く）、YCAMスタジオA（8月3日）
入場者数:不明（8月2日／入場無料）、114人（8月3日／2,000円他）

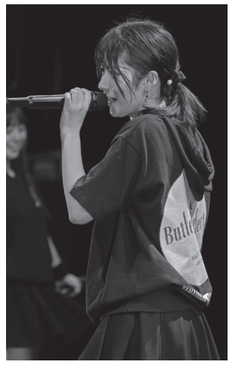
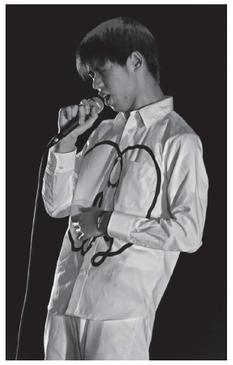
企画展「MEDIA/ART KITCHEN YAMAGUCHI―地域に潜るアジア:参加するオープン・ラボラトリー」の関連イベントとして、作曲家でギタリスト、映画音楽家としても数多くの映像作品の音楽を手掛ける大友良英がアジアを拠点に活動する音楽家たちと結成する「大友良英FENオーケストラ」がライブパフォーマンスを開催しました。
8月2日はコンサートの形式だけにとどまらないYCAM全館を自由に使ってのパフォーマンスが繰り広げられ、入場者はどこで何が起こるか予想がつかない状況の中、自分の足で、自分の耳で、同時多発的に生まれる多様な音楽を体感します。翌3日はアジア各国の音楽家たちが、前日と打って変わって、ハイクオリティな音響環境を誇るYCAMスタジオAを舞台に新しいオーケストラを試みる2部構成のコンサートを開催しました。

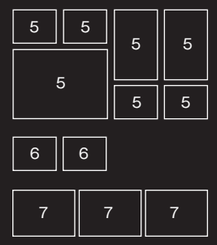
【関連】トークイベント

パネリスト:大友良英、ユエン・チーワイ、開沼博
開催日時:8月2日（土）10:30～12:30
会場:YCAMホワイエ
入場者数:70人（入場無料）

「地域、国境、言葉など音楽と社会に関すること」をテーマにトークイベントを開催しました。

ART



5 sound tectonics #15「sound&lyrics」
6 国際シンポジウム「Localizing Media Practice—地域化するアートの未来」
7 RADLOCAL “地域×メディア”

5 sound tectonics #15「sound&lyrics」

出演:Charisma.com、降神、Vampillia、GOMESS、山口活性学園
開催日時:2015年2月21日(土)17:30開場／18:00開演
会場:YCAMスタジオA
入場者数:230人(入場料2,000円他)

電子音響を中心に国内外のアーティストによる最新のサウンドアートを紹介するライブコンサートシリーズの15回目となる本作は、5組のミュージシャンを招き、サウンドとリリックの融合による音と言葉の新たな関係を追及しました。
YCAMが誇るハイクオリティの音響環境の中、ラップやヒップホップ、ご当地アイドルといった様々なジャンルのミュージシャンを揃えることで、多様で豊かな鑑賞の場を提供できました。

6 国際シンポジウム「Localizing Media Practice—地域化するアートの未来」

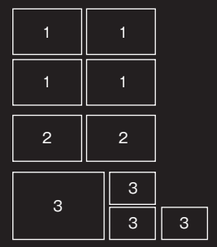
パネリスト:スージー・スレイマン(Digital Art + Culture festival代表)、イ・スジュン(韓国国立現代美術館キュレーター)、ヴェンザ・クリスト(HONF Foundation)、シュレイアス・カルレ(CONA foundationクリエイティブ・ディレクター)
モデレーター:会田大也(東京大学特任助教、前山口情報芸術センター[YCAM]チーフエデュケーター)、阿部一直(山口情報芸術センター[YCAM]チーフキュレーター)
開催日時:8月10日(日)13:30〜17:30
会場:YCAMホワイエ
入場者数:69人(入場無料)

このシンポジウムでは、マレーシア、インドネシア、 韓国、インドから、アートを通じて地域の課題に向き合い、その資源を活かすような活動をおこなう4人のディレクター／キュレーターを招いて、今日における「アートの拠点」をテーマに議論を深めました。アジアでユニークな活動を実践する人々の言葉を聞くことのできる機会となりました。

7 RADLOCAL “地域×メディア”

講師:桂英史(東京藝術大学大学院映像研究科教授)、齋藤精一(株式会社Rhizomatiks代表取締役)、若林恵(雑誌『WIRED』日本版編集長)、渡辺ゆうか(FabLabKamakura,LLC代表)、小野裕之(ウェブマガジン『greenz.jp』副編集長)、明日香健輔(阿東文庫)、YCAM InterLab
開催日時:12月11日(木)〜12月14日(日)
会場:YCAMスタジオA、阿東地域
参加者数:28人(参加無料)

「地域×メディア」をテーマに、幅広い発想力で地域課題、地域発信、公共空間といった問題へ取り組む次世代の「地域プランナー」を育成する集中ワークショップを開催しました。多岐にわたる講師陣によるレクチャーのほか、テクノロジーやコミュニティ作り、リサーチに関する各種ワークショップをYCAM館内及び阿東の中山間地域で実施しました。参加枠は当初15名程度であったにも関わらず、県内外から45名の応募がありました。



1 Reactor for Awareness in Motion(RAM) サマーキャンプ 2014

2 映像で見る世界のダンス vol.3「不確定な行為：テクノロジー／ムーブメント／振付／表現する身体の歴史」

3 アント・ハンプトン+ティム・エッチェルス「The Quiet Volume（ザ・クワイエット・ボリューム）」

1 Reactor for Awareness in Motion(RAM)サマーキャンプ2014

講師:安藤洋子（ダンサー／ザ・フォーサイス・カンパニー［ドイツ］）、清水基（プログラマー）、筧康明（慶應義塾大学環境情報学部准教授）、稲見昌彦（慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科教授）、クリス・サルター（コンコルディア大学［カナダ］准教授）、YCAM InterLab
開催日時:7月19日（土）～7月21日（月・祝）
会場:YCAMスタジオA
参加者数:47人（参加費10,000円）

新しいダンス表現の創作に挑戦する2010年から継続的に取り組んでいる共同研究開発プロジェクトRAM（ラム）。ダンスとテクノロジーの第一線で活動する人材が共同で次世代のダンス創作のためのシステムを研究・開発し、これからの創作のあり方を提示してきました。
今回はダンサーおよびプログラマーに向けた3日間の集中ワークショップを開催しました。講師はYCAM InterLabや世界の第一線で活躍中のダンサー安藤洋子、ゲスト研究者が務めました。参加者であるダンサー・振付家とプログラマーはチームを組み、講師のレクチャーを受けながら、RAMで開発されたオリジナルのハードウェアやソフトウェアを使ってダンスを創作していきます。 近年、ゲームやエンターテインメントまで幅広い分野で高い注目を集める、ダンスとテクノロジーが融合する表現の創作に触れられる本ワークショップは、技術だけでなく発想や創作の方法をステップアップさせるものとなりました。

RAMの過去の実績として、開発したツールやシステムは全てインターネットを通じて無料のオープンソースで公開することで、プログラミングするダンサーなど、国内外を問わず注目を集めてきました。また、2013年にはそれまでの取り組みが評価され、第17回文化庁メディア芸術祭アート部門審査員委員会推薦作品に選出されました。

2 映像で見る世界のダンスvol.3「不確定な行為:テクノロジー／ムーブメント／振付／表現する身体の歴史」

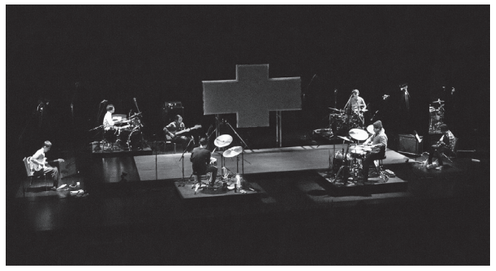
講師:クリス・サルター（アーティスト／コンコルディア大学［カナダ］准教授）
聞き手:岩城覚久（美学・映像メディア論／関西学院大学）
開催日時:7月19日（土）16:30～19:30
会場:YCAMスタジオA
入場者数:56人（入場料1,000円他）

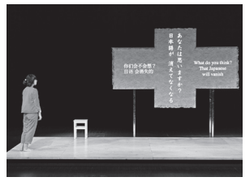
舞台芸術史において重要な人物やムーブメントを、映像記録を通して紹介するシリーズ「映像で見る世界のダンス」の第3弾。今回は「RAM サマーキャンプ2014」にあわせて、講師にアーティストでコンピューテーション・アーツの研究者、クリス・サルターを招き、20～ 21世紀のテクノロジーと科学との関係から、ダンスとムーブメントの歴史を解説しました。このレクチャーでは、過去のダンス作品や、私たちの身体を捉え、拡張するテクノロジーについて映像で紹介しながら、動く身体が内的・外的なシステムによって形作られてきた様子を明らかにしました。

3 アント・ハンプトン+ティム・エッチェルス「The Quiet Volume（ザ・クワイエット・ボリューム）」

開催日時:12月1日（月）～12月14日（日）〈火曜日除く〉
会場:山口市立中央図書館（YCAM内）
参加者:176人（参加料800円他）

YCAMに併設している山口市立中央図書館を舞台に、本を読むこと、図書館で過ごすこと、という何気ない経験に驚きと奥深さを見せてくれる体験型の演劇作品を上演しました。観客は開館中の図書館で、2人一組で席に着き、それぞれのヘッドフォンから聞こえてくる「ささやき声」に導かれながら、目の前に積まれた本から本へと文字を辿り、自分がいる図書館という場所から本の世界へ、また現実の図書館へと旅をするような体験をしました。
現在までに23カ国の図書館で上演され、2013年の東京公演では完売となった本作は2013年先鋭的なダンスやパフォーマンスに贈られるベッシー賞（サウンドデザイン賞）を受賞しています。





4 4
4 4 4
4※ 4※ 4※ 4※

5 5

4　チェルフィッチュ「地面と床」
4※　〔関連〕ワークショップ「音楽劇のつくり方」
5　Dividual Plays—身体の無意識とシステムとの対話

4　チェルフィッチュ「地面と床」

出演:チェルフィッチュ
開催日時:12月6日(土)13:30開場／14:00開演
会場:YCAMスタジオA
入場者数:183人(入場料3,500円他)

現代日本を代表する劇作家・演出家の岡田利規が主宰する「チェルフィッチュ」の「地面と床」を上演しました。近未来の日本を舞台にしたフィクションを通して日本・日本語を描く本作では、国は衰退し、これから戦争が始まるかもしれないという不穏な空気の中、亡くなってからも家族の前に現れる母の幽霊や、これから生まれてくる子供を持つ若い母親など、一つの家族を中心に対立し、断絶する人々が描かれています。終演後に音楽を担当したサンガツのライブを開催したことは音響環境に定評のあるYCAMならではのプログラムとなりました。

【関連】ワークショップ「音楽劇のつくり方」

講師:岡田利規(演劇作家／小説家／チェルフィッチュ主宰)、サンガツ、YCAM教育普及担当
開催日時:12月7日(日)10:30〜16:00
会場:YCAMスタジオA
参加人数:9人(参加料500円)

音楽劇をテーマにしたワークショップであり、作品の制作プロセスを感じさせる体験を提供しました。

5　Dividual Plays—身体の無意識とシステムとの対話

出演:川口ゆい、小尻健太、笹本龍史(METHOD B)
開催日時:2015年1月24日(土)18:30開場／19:00開演、1月25日(日)13:30開場／14:00開演
会場:YCAMスタジオA
入場者数:412人(入場料2,500円他)

YCAM InterLabを中心に、ダンサーの安藤洋子とテクノロジーの専門家とのコラボレーションによる新作ダンス作品を発表しました。本公演は、YCAMと安藤洋子や国内外のソフトウェア開発者らとともに2010年から継続的に取り組んでいる、テクノロジーを通じて身体の可能性を拡張するプロジェクト「Reactor for Awareness in Motion(RAM=ラム)」の成果を公演として発表したものです。

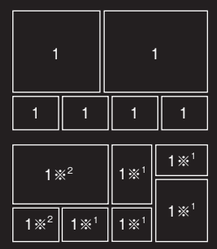
【関連】ポストトーク

出演:安藤洋子(ダンサー)、田根剛(建築家)、筧康明(インタラクティブ研究者／デザイナー)、YCAM InterLab
開催日時:2015年1月24日(土)、25日(日)Dividual Plays終演後
会場:YCAMスタジオA

【関連】ゲストレクチャー「超身体・脱身体・融身体」

講師:稲見昌彦(慶応義塾大学大学院メディアデザイン研究科教授)
開催日時:2015年1月25日(日)16:00〜
会場:YCAMスタジオA

EDUCATIONAL



1　　子どもたちが創造する屋外メディア公園「コロガルパビリオン」

1※[1]　〔関連〕札幌国際芸術祭 2014「コロガル公園 in ネイチャー」

1※[2]　札幌国際芸術祭 2014「フォレスト シンフォニー in モエレ沼」

1　子どもたちが創造する屋外メディア公園「コロガルパビリオン」

開催日時:8月1日（金）〜8月31日（日）〈火曜日除く〉10:00〜18:00
会場:山口市中央公園
入場者数:16,466人（入場無料）

2013年のYCAM10周年記念祭で好評を博した公園型インスタレーション「コロガルパビリオン」を一か月間の期間限定で再開しました。
コロガルパビリオンはメディアと身体の両方を使って遊ぶことができる新しい公園です。子供たちの感覚を刺激し、自発的な「遊び」の創造を促す場として、2013年約4か月間の会期中に約4万7千人の人々が訪れ、大盛況を博しました。その一方で、会期終了が近づくにつれ、利用者の間で会期延長を求める声が強くなり、子供たちを中心に署名運動がスタート。約1000人の署名が集まり、今回の再開という運びとなりました。
今回のコロガルパビリオンは、子供たちからリクエストがあった照明や音響装置などのメディアテクノロジーを駆使した装置があらたに増設されたほか、YCAMで開催中の展覧会と連携したワークショップを行いました。さらには同時期に札幌で開催される札幌国際芸術祭の「コロガル公園inネイチャー」とコラボレーションしました。
利用者自らが使い方を考え、運営にあたるコロガルパビリオンは、今日の社会で生きるための知恵や想像力を育む糸口となりました。

【関連】コロガルファクトリー

開催日時:8月17日（日）、24日（日）14:00〜16:00
会場:YCAMホワイエ内特設会場
参加者数:不明（参加無料）

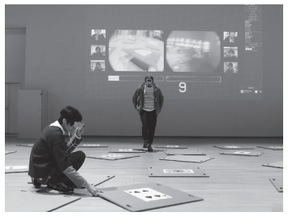
「体」と「メディア」を用いたワークショップを開催しました。「あそび」から広がるアイデアをおもいきり実験しました。

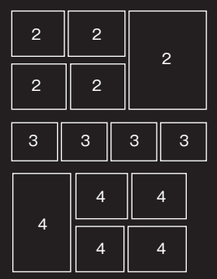
【関連】札幌国際芸術祭2014「コロガル公園inネイチャー」supported by 札幌丸井三越

開催日時:7月19日（土）〜9月28日（日）
会場:札幌市資料館

札幌国際芸術祭は札幌初の国際的なアートフェスティバルです。YCAM10周年記念祭で総合アーティスティックディレクターを務めた音楽家の坂本龍一をゲストディレクターに迎え、「都市と自然」をテーマに開催されました。YCAMからは坂本龍一とのコラボレーションによるインスタレーション作品「フォレスト・シンフォニーinモエレ沼」と、YCAMと建築家・五十嵐淳とのコラボレーションによる「コロガル公園inネイチャー」が参加しました。
同時期に開催された札幌国際芸術祭とYCAMをネットワークで繋いで、山口市だけで遊びを生み出すのではなく、札幌の子供たちと一緒に新しい遊び方やルールなどを生み出しました。

EDUCATIONAL





2 Sony CSL × YCAM 共同研究開発企画「JackIn ワークショップシリーズ」
3 YCAM オリジナルメディアワークショップ「言語のビッグバン」
4 中原中也　歩みのリズム―〈僕は街なぞ歩いていました〉

2　Sony CSL×YCAM共同研究開発企画「JackInワークショップシリーズ」

開催日時:2015年3月14日（土）、3月15日（日）、3月21日（土）、
3月22日（日）14:00〜16:00
会場:YCAMスタジオB
参加者数:65人（参加無料）

ソニーコンピュータサイエンス研究所（Sony CSL）研究員·笠原俊一と共同で、人が人へ「ジャックイン」する新しいコミュニケーションの形を探索し、人間の能力や感覚を拡張していく事象を探る「JackInワークショップシリーズ」を研究開発しました。
複数人の参加者が簡易型のヘッドマウントディスプレイ（HMD）とカメラを装着して、自分視点のカメラ映像を他者と共有、交換して、ネットワーク越しに相互に体験を共有する「JackIn」という状況に身を置きながらいくつかのゲームを行いました。参加者はこの過程を通じて、人間の拡張·人間のメディア化の可能性について考えを深めることとなります。

3　YCAMオリジナルメディアワークショップ「言語のビッグバン」

開催日時:2015年2月22日（日）14:00〜16:00
会場:YCAM楽屋7、8
参加者数:5人（参加無料）

音声認識技術や翻訳技術の発達により、将来的に異言語話者同士のコミュニケーションプラットフォームが私たちの日常生活に溶け込んでいくことが予想される昨今において、グローバル社会において万人に必要となる「言語のリテラシー」について体験を通じて深く考察することのできるワークショップを開催しました。
本ワークショップでは、既存のビデオチャットツール（skype,Google Hangoutなど）を外部アプリケーションとして、日本語で発話すると相手側の選択した言語（母国語）にリアルタイムで自動翻訳されるツールを開発し、それを使い5人の異言語話者が自動翻訳環境においてのコミュニュケーションをゲームを通じて体験しました。
今後、ますます国際化する社会の中で言語の本質や母国語、個人のアイデンティティーといった自己の源泉について考える機会を提示することができました。

4　中原中也　歩みのリズム―〈僕は街なぞ歩いていました〉

開催日時:2014年10月1日（水）〜2015年1月25日（日）〈月曜日、毎月最終火曜日、2014年12月29日〜2015年1月3日除く〉9:00〜18:00
会場:中原中也記念館
入場者数:6,054人

中原中也記念館開館20周年の記念事業の一環として、YCAMと中也記念館のコラボレーション企画を開催しました。中也は日常生活の中で「歩く」ことを重視し、作品や書籍の中でも「歩く」を多数言及しています。本展では、中也の生活において特徴的であった「歩み」と、歩き続ける生活の中で宿った詩の「リズム」をテーマに、来館者が詩と身体の両方に向き合いながら、中也の詩の魅力を発見できるような体験型の展示を行いました。

1　真夏の夜の星空上映会

開催日時:8月15日(金)～8月17日(日)19:30～
会場:山口市中央公園
入場者数:850人(入場無料)

YCAMの夏の風物詩「真夏の夜の星空上映会」を今年も開催しました。涼しくなった夕暮れ時に友達や家族と共に、芝生でゆったりとお楽しみいただける映画「雨に唄えば」「バンダバンダ&バンダバンダ雨降りサーカス」「クロニクル」を上映しました。

2　YCAM爆音映画祭2014

開催日時:9月19日(金)～9月23日(火･祝)
会場:YCAMスタジオA
入場者数:550人(入場料1,300円他)

映画評論家／boid主宰の樋口泰人が東京･吉祥寺のバウスシアターを拠点に全国各所で開催している「爆音映画祭」をYCAM用にパワーアップさせて開催しました。企画者であり監修者である樋口氏に「バック･トゥ･ザ･フューチャーはもうYCAMでしか上映しない」と言わしめたほど、充実の音響セッティングによる大音響は、作品の迫力もさることながら、その映画における音の核心はどこにあるのかを追及できる内容となりました。
上映作品:「バック･トゥ･ザ･フューチャー」「ファイト･クラブ」「アンダーグラウンド」「ほったまるぴより」「螺旋銀河」「エクソシスト」「魚影の群れ」「ブリングリング」「憂鬱な楽園」「スプリング･ブレイカーズ」「ブルース･ブラザーズ」「5windows」「5windows mountain mouth」「シミラーバットディファレンス」

3　映画で知る中原中也

開催日時:10月11日(土)～13日(月･祝)、10月17日(金)～19日(日)、10月24日(金)、10月25日(土)、10月31日(金)
会場:YCAMスタジオC
入場者数:399人(入場無料、「丹下左膳第1篇」のみ500円)

中原中也記念館開館20周年記念関連上映として中也にちなんだ映画を上映しました。中也の詩が重要な鍵となる大林宣彦監督最新作「野のななのか」や中也が生前鑑賞した映画「丹下ガリガリ博士」「モロッコ」「新しき土」を無料上映したほか、中也の恋人としても知られる女優･長谷川泰子の出演作「眠れ蜜」も無料上映しました。また、中也の詩「道化の臨終」に登場する伊藤大輔監督作品「丹下左膳第1篇」を上映後、トーク「中也が観た映画」を中也記念館の学芸員とYCAMシネマ担当で開催しました

【関連】大林宣彦監督トークイベント
出演:大林宣彦(「野のななのか」監督)、大林恭子(同作エグゼクティブ･プロデューサー)
開催日時:10月12日(日)16:35～17:30
会場:YCAMスタジオC
入場者数:93人(入場無料)

大林宣彦監督トークイベント

4　Asano Tadanobu Tribute Event:excam

出演者:Hair Stylistics(中原昌也)、Nyantora(koji Nakamura／ナカコー)、Duenn(ダエンレーベル)
開催日時:2015年2月21日(土)
会場:YCAMスタジオA
入場者数:87人(入場料2,000円他)

YCAMシネマ特集上映「映画俳優、浅野忠信」にあわせ、日本を代表する映画俳優であり、同時に音楽ライブ、映画監督、ドローイングなど幅広い分野で精力的に活動を行うアーティストでもある浅野忠信に捧げる一日限りのライブイベントを開催しました。

5　コミュニティシネマ山口

会場:YCAMスタジオC
入場者数:1,531名(入場料1,300円他)

上映作品
4月「熱波」
5月「バラダイス:愛」「バラダイス:神」「バラダイス:希望」「怒れ!憤れ!―ステファン･エセルの遺言―」
6月「楽隊のうさぎ」「アウト･オブ･キリング」
7月「ハナ～奇跡の46日間～」「北朝鮮強制収容所に生まれて」「チスル」「アイ･ウェイウェイは謝らない」「黒四角」
8月「罪の手ざわり」「収容病棟」「ヤンヤン夏の思い出」「台湾アイデンティティー」「消えた画クメール･ルージュの真実」「愛の渦」
9月「恋の渦」
10月「シンプル･シモン」「365日のシンプルライフ」
12月「親密さ」「エスケプ･フロム･トゥモロー」「ほんとうのうた～朗読劇「銀河鉄道の夜」を追って～」
1月「聖者たちの食卓」「フランシス･ハ」「イーダ」「物語る私たち」
2月「よみがえりのレシピ」
3月「トム･アット･ザ･ファーム」「わたしはロランス」

「楽隊のうさぎ」

6　Select CINE TECTONICS

映画を芸術作品としてとらえ、世界の様々な地域の古典から新作まで、芸術史およびメディア史的視点から、意義のある映画作品を紹介するシリーズ。ドキュメンタリーも含んだ普段山口では上映される機会がまれな様々な映画作品を、映画作家やテーマ別にセレクトして上映しました。

青山真治監督トークイベント

●Select CINE TECTONICS=20

「ロベール･ブレッソン監督特集」
開催日時:4月26日(土)～4月29日(火･祝)
会場:YCAMスタジオC
入場者数:224人(入場料1,000円他)

自らの作品を「シネマトグラフ」と呼び、プロの俳優を起用せず、音楽も抑えるなど、自らの哲学により独自の作風を確立したロベール･ブレッソンの作品を上映しました。
上映作品:「抵抗　死刑囚の手記より」「スリ」「白夜」「ラルジャン」「Le Petit Chaperon Rouge」

【関連】トークイベント
ゲスト:青山真治(映画監督)
開催日時:4月29日(火･祝)14:10～
会場:YCAMスタジオC
入場者数:不明(入場無料)

7　特集上映

●ポーランド映画祭2014

開催日時:4月12日（土）～20日（日）
会場:YCAMスタジオC
入場者数:64人（入場料1,300円他）
上映作品:「夜行列車」「さよならなら、また明日」「不運」「沈黙の声」「沈黙」「サラゴサの写本」等

映画史にのこる、戦後のポーランド映画の中から厳選された9本を上映しました。世界の映画人に大きな影響をあたえセンセーションを巻き起こした作品の数々を堪能いただきました。

●森崎東監督特集

開催日時:5月3日（土・祝）～11日（日）
会場:YCAMスタジオC
入場者数:247人（入場料3,000円他）
上映作品:「男はつらいよフーテンの寅」「野良犬」「時代屋の女房」等

新作「ペコロスの母に会いに行く」と喜劇映画からサスペンス、メロドラマまで、旧作5本を合わせた上映を行いました。庶民の生活や生き方を独自のユーモラスな視点で描いた作品の数々を堪能いただきました。

●GEORAMA2014

開催日時:6月20日（金）～22日（日）
会場:YCAMスタジオC
入場者数:139人（入場料1,500円他）
上映作品:「痛くて惨めだ」「チトー・オン・アイス」「コンシューミング・スピリッツ」「背の高い男は幸せ?」等

多くのアニメーション作品を紹介してきたCALFが、2015年秋に新しいアニメーションフェスティバル「GEORAMA」を創設しました。本特集はこれを記念して開催される第0回大会です。

【関連】「おかえりなさい、うた」+「ひらのりょうレトロスペクティブ」+トークイベント
出演者:生西康典（演出家／美術家／映像作家）、ひらのりょう（アニメーション作家）、土居伸彰（アニメーション研究・評論）
開催日時:6月21日（土）18:30～
会場:YCAMスタジオC
入場者数:不明（入場料1,800円他）

●ビートニク映画祭

開催日時:6月26日（木）～29日（日）
会場:YCAMスタジオC
入場者数:86人（入場料3,000円他）
上映作品:「チャパクア」「ドント・ルック・バック」「スウィンギング・ロンドン1&2」「シッダールタ」等

アメリカで50年代～60年代にかけてアメリカ文学で独自の存在感をもち、ヒッピーやアンダーグラウンドで活動をする人々から絶大な支持を受けた「ビートニク」に関連した映画を上映しました。

「ドント・ルック・バック」

●金曜夜のYCAMシネクラブ（インディペンデント映画特集）

開催日時:2014年7月11日（金）～2015年3月13日（金）
会場:YCAMスタジオC
入場者数:378人（入場料1,000円他）
上映作品:「不気味なものの肌に触れる」「2045Carnival Folklore」「ダークシステム［完全版］」等

これからの活躍が期待され、インディペンデント映画戦国時代をサバイブする映画作家の作品を紹介するシネクラブを開催しました。

【関連】濱口竜介×加藤直輝トークイベント
ゲスト:濱口竜介（映画監督）、加藤直輝（映画監督）
開催日時:8月2日（土）21:25～22:00
会場:YCAMスタジオC
入場者数:不明（入場無料）

「不気味なものの肌に触れる」

●優秀映画鑑賞推進事業《異端のヒーローたち》

開催日時:9月11日（木）～14日（日）
会場:YCAMスタジオC
入場者数:182人（入場料500円）
上映作品:「不知火検校」「次郎長三国志」「網走番外地」「人生劇場飛車角と吉良常」

見るものを惹きつけて止まない異端のヒーローたち。シリーズ化やリメイクにより、時代を超越するアイコンとなった主人公を描く日本映画史に名を刻む作品群を上映しました。

●蘇ったフィルムたち

開催日時:11月1日（土）～3日（月・祝）
会場:YCAMスタジオC
入場者数:107人（入場料1,000円他）
上映作品:「忠次旅日記」「紅葉狩」「羅生門」「銀輪」「幕末太陽傳」「幸福」

フィルムの上映環境を確保するための「Fシネマプロジェクト」の一環として、コミュニティシネマセンターの会員館を中心に全国で実施されたものです。

「羅生門」

●映画の南米

開催日時:11月8日（土）～16日（日）
会場:YCAMスタジオC
入場者数:117人（入場料1,300円他）
上映作品:「リアリティのダンス」「ホドロフスキーのDUNE」「闇のあとの光」等

地球の真裏で作られた映画たち。1960年代以降現在までボリビアで先住民たちと映画を作り続けているウカマウ集団、「エル・トポ」などで知られ世界中に熱狂的なファンを持つチリ出身アレハンドロ・ホドロフスキー監督による自伝的新作、メキシコの若き巨匠カルロス・レイガダスのカンヌ受賞作などを上映しました。

●ジャック・タチ映画祭

開催日時:11月22日（土）～30日（日）
会場:YCAMスタジオC
入場者数:208人（入場料1,300円他）
上映作品:「プレイタイム」「ぼくの伯父さん」「トラフィック」「パラード」「のんき大将［脱線の巻］【完全版】」等

フランス映画界に燦然と輝く異才ジャック・タチ。最新デジタル復元版を一挙上映しました。

「プレイタイム」

●MoMAニューヨーク近代美術館映画コレクション

開催日時:12月19日(金)～23日(火・祝)
会場:YCAMスタジオC
入場者数:149人(入場料1,300円他)
上映作品:「イタリアン・アメリカン」「ビッグ・トレイル」「暗黒の恐怖」「バンド・ワゴン」等

MoMAの通称で知られる「ニューヨーク近代美術館」。映画草創期の短篇、ウォルト・ディズニー自身がつくった貴重なアニメーション、1950年代のハリウッドの黄金時代を彩る作品群、アンディ・ウォーホルによる映画作品、若き日のマーティン・スコセッシ監督が自身の両親を撮った貴重なドキュメンタリー。MoMAの映画コレクションの豊かさと独自性を心ゆくまで堪能していただきました。

「バンド・ワゴン」

●映画俳優、浅野忠信

開催日時:2015年1月29日(木)～3月8日(日)
会場:YCAMスタジオC
入場者数:430人(入場料2,000円他)
上映作品:「Helpless」「エリ・エリ・レマ・サバクタニ」「サッドヴァケイション」「バタアシ金魚」「ねじ式」等

唯一無二の存在感を放ち続け、映画人のみならず各界から圧倒的な支持を集めている俳優・浅野忠信。彼の出演作および監督作計22本を厳選上映、トークイベントや俳優以外の浅野忠信の活動に捧げるライブイベントを開催しました。日本現代映画史を振り返りつつ、映画における俳優の存在について考察していきました。

「地球で最後のふたり」

【関連】トークイベント+黒沢清監督短篇「ココロ、オドル。」
登壇:中原昌也(音楽家／小説家)
聞き手:樋口泰人(映画評論家／爆音映画祭主宰)
開催日時:2015年2月22日(日)15:30～17:00
会場:YCAMスタジオC
入場者数:不明(入場無料)

●フランソワ・トリュフォー映画祭

開催日時:2015年3月12日(木)～29日(日)
会場:YCAMスタジオC
入場者数:274人(入場料1,300円他)
上映作品:「大人は判ってくれない」「突然炎のごとく」「ピアニストを撃て」「家庭」「日曜日が待ち遠しい!」等

ヌーヴェル・ヴァーグの旗手として世界の映画に革命を起こし、日本の映画ファンにこよなく愛されるフランソワ・トリュフォー。後にフランス映画を代表する映画監督となったトリュフォー没後30年を期に、計12作品を特集しました。

[5] 主な貸館事業

●ベネ・ミュラーさん講演会「Think global,Act local 地域のエネルギー大転換を実施するソーラーコンプレックス社」

(主催)NPO法人山口現代藝術研究所(YICA)
開催日時:6月12日(木)18:30～20:30
会場:YCAMスタジオC

●第50回テレビと生涯学習研究協議会「あふれる笑顔心豊かな未来へ」

(主催)公益財団法人民間放送教育協会
開催日時:10月16日(木)～18日(土)
会場:YCAMスタジオA、ホワイエ

●コレクティヴ:EAS_Y Vol.01イアン・カー& ペティア・モロゾフ・レクチャー

(主催)山口大学
開催日時:11月29日13:30～15:30
会場:YCAM 多目的室

●年末学外上映会

(主催)山口大学映画制作サークルロイヤルミルクティー
開催日時:12月18日(木)
会場:YCAMスタジオC

●バンプローナ市姉妹都市締結35周年記念「姉妹都市バンプローナの紹介とスペイン映画上映会」

(主催)山口市
開催日時:2015年2月19日(木)18:30～
会場:YCAMスタジオC

[6] 施設利用状況

1 入館者数

月別内訳(人)

4月	49,369	10月	52,264
5月	56,178	11月	54,840
6月	55,218	12月	45,036
7月	61,231	1月	50,573
8月	100,161	2月	57,712
9月	55,576	3月	47,908
合　計	686,066		

2 見学・視察者数

月別内訳(人)

4月	89	10月	90
5月	84	11月	171
6月	104	12月	62
7月	19	1月	13
8月	113	2月	42
9月	34	3月	14
合　計	835		

3 施設使用状況

施設	開館日数(日)	使用日数(日)	使用率(%)
スタジオA	307	165	54.0
スタジオB	307	179	57.5
スタジオC	307	204	66.4
多目的室	307	165	53.7

※使用率は月ごとの使用率の平均値を記載しています。

[7] その他特記事項

1 アーカイブ事業

内容:例年通り、プロジェクト毎の映像編集を実施した。Webやインフォメーションスペースにおいて、イベントの告知や、過去の作品内容の情報提供に努めました。

2 実習生受け入れ状況

●博物館実習
1名
期間:7月1日(水)～8月31日(月)
内容:教育普及事業運営補助等
4名
期間:8月24日(日)～8月31日(月)
内容:教育普及事業運営補助等

●インターン
6名
期間:9月11日(木)～9月22日(月)
内容:教育普及事業運営補助等
1名
期間:2015年1月7日(水)～3月30日(月)
内容:YCAM InterLab課業務補助等

主な関連新聞記事

主な関連新聞記事

主な関連新聞記事

主な関連新聞記事

主な関連新聞記事

〈参考資料〉

山口情報芸術センターの活動成果

[アート部門]

渋谷慶一郎+岡田利規「THE END」

音楽家の渋谷慶一郎と演出家の岡田利規が「終わり」をテーマにした、人間の歌手もオーケストラも登場しない初音ミクによるボーカロイド・オペラを制作。東京、パリを巡回した。
2012年12月1日-2日 YCAM
2013年5月23日-24日（Bunkamuraオーチャードホール/東京）
2013年11月12日-15日 (Théâtre du Châtelet /パリ/フランス)

三上晴子「Desire of Codes ¦ 欲望のコード」

2010年に山口情報芸術センター[YCAM]にて委嘱制作し公開された。
2010年3月20日-2010年6月6日 YCAM
■「蠢く壁面」「巡視する複眼スクリーン」
2010年7月31日-9月5日 "TRUST"（Dortmund U/ドルトムント/ドイツ）
2012年8月27日-9月30日 Ars Electronica 2012(LENTOS Kunstmuseum/リンツ/オーストリア)
2013年2月13日-2月24日 第16回文化庁メディア芸術祭（国立新美術館/東京）
2013年7月5日-9月8日 Artist as Catalyst（La Alhóndiga Cultural Centre /スペイン）
2014年5月17日　Wonder of Fantasy:The Transformation of Coontemporary Image-scape(国立台湾美術館/台湾)
■「多視点を持った触覚的サーチアーム」
2010年8月5日-9月20日 "SPACE INVENTIONS"（Kunstlerhaus/ウィーン/オーストリア）
2011年10月22日-12月18日 ICC（初台/東京）
2012年8月27日-9月30日 Ars Electronica 2012(LENTOS Kunstmuseum/リンツ/オーストリア)
2013年2月13日-2月24日 第16回文化庁メディア芸術祭（国立新美術館/東京）
2013年7月5日-9月8日 Artist as Catalyst（La Alhóndiga Cultural Centre /スペイン）
2014年5月17日-8月3日 Wonder of Fantasy:The Transformation of Contemporary Image-scape(国立台湾美術館/台湾)

「大友良英 / ENSEMBLES/quartets」

2008年に実施した「大友良英/ ENSEMBLES」展5作品の内、「quartets」について巡回した。
2008年7月5日 – 10月13日　YCAM
2013年12月21日-2014年2月16日　Media/Art Kitchen（Bangkok Art and Culture Centre [BACC]／バンコク／タイ）
2014年11月22日-2015年2月22日　大友良英 音楽と美術のあいだ（NTTインターコミュニケーション・センター[ICC]/東京）

渋谷慶一郎+池上高志「filmachine」

渋谷慶一郎と複雑系科学研究者の池上高志両氏によるコラボレーション作品。彼らが提唱する複雑系科学を応用した新しい音楽構成理論「第三項音楽」に基づいて緻密に作り上げられたコンピュータサウンドによる立体音響インスタレーションがMEDIA AMBITION TOKYOを巡回した。
2006年8月9日-10月9日 YCAM
2011年3月10日-20日 Festival EXIT （クレテイユ／フランス）
2011年3月24日-4月3日 Festival VIA（モブージュ／フランス）
2011年4月13日-8月14日 Gare Saint-Sauveur（リール／フランス）
2014年2月7日-3月30日 MEDIA AMBITION TOKYO（東京シティビュー／東京）

大脇理智「skinslides」

アートの地平を切り開く挑戦的なプロジェクトや、今後が期待される若手アーティストのインスタレーションなどを紹介する展示シリーズ「scopic measure」の第9弾として、ダンサーの大脇理智を中心としたアーティストグループnewClearが制作。文化庁メディア芸術祭を受賞した。
2009年4月25日-8月31日　YCAM
2014年2月26日-3月9日　文化庁メディア芸術祭釧路展（北海道立釧路美術館/北海道）
2014年9月5日-9月21日　文化庁メディア芸術祭松山展（愛媛県立美術館/愛媛）

池田亮司「supersymmetry」

日本を代表する電子音楽作曲家でアーティストの池田亮司による新作インスタレーション作品。フランスのル・リュー・ユニック・ユニック・ナント芸術センターとの共同制作の本作は、フランスでも巡回展示された。
2014年6月27日-9月21日　Le Lieu Unique（ナント／フランス）

坂本龍一+YCAM InterLab「Forest Symphony」

YCAM10周年記念祭の一環として、10周年記念祭のアーティスティック・ディレクターを務める坂本龍一とYCAM InterLabにより制作発表されたインスタレーション+ウェブコンテンツ。
2014年7月19日-9月28日　札幌国際芸術祭2014（モエレ沼公園/札幌）

[パフォーミングアーツ部門]

梅田宏明新作ダンス公演「Holistic Strata」

2011年2月19日-20日　YCAM
2011年3月10日-12日 EXIT-Festival（クレテイユ／フランス）
2011年3月31日-4月1日 VIA Festival（モブージュ／フランス）
2011年6月9日 ARTROCK Festival（サン・ブリュー／フランス）
2011年7月9日-10日 Julidans（アムステルダム／オランダ）
2011年8月25日-27日 Noorderzon Performing Arts Festival（フローニンゲン／オランダ）
2012年4月19日-21日 Usine C-Festival Temps d'Images（/カナダ）
2012年4月29日 Belrut International Platform of Dance(/レバノン)
2012年5月2日 Ramallah Contemporary Dance Festival(/パレスチナ)
2012年5月8日 Cultuurcentrum Hasselt(/ベルギー)
2012年9月25日-27日 La Blennale de la Danse/Theatre de la Renalssance(/フランス)
2013年6月26日 МЕДИАФЕСТИВАЛЬ（Winzavod Contemporary Art Center/モスクワ /ロシア)
2013年9月6日 あいちトリエンナーレ2013(愛知県芸術劇場/愛知)
2013年10月18日-19日　da:ns festival (Esplanade Theatre Studio/シンガポール)
2014年9月10日　Beakerhead（EPCOR CENTRE for Performing Arts/カナダ）
2014年10月16日　COTE OUEST（Base sous-marine/フランス）
2014年11月25日　Stereolux（/フランス）
2014年11月29日　Convergence Summit（The Banff Centre/カナダ）
2014年12月5日　Automne en Normandie　2014（Le Rive Gauche/フランス）
2015年1月30日-31日　Trafó（/ハンガリー）

[教育普及部門]

熊本市現代美術館ワークショップ招聘

熊本市現在美術館の夏休みイベントとして、身近なケータイというメディアを使って、マナーとルールを学ぶメディアリテラシーワークショップ「ケータイ・スパイ・大作戦」が招聘された。
2013年8月1日（熊本市現代美術館／熊本）

キッズデザイン展ワークショップ招聘

オリジナルワークショップシリーズがキッズデザイン賞2012の最優秀賞　経済産業大臣賞を授与したことから、同協議会が新潟市で開催する子ども向けイベント「キッズデザイン展」に受賞ワークショップのひとつ「感覚アスレチック」が招聘された。
2013年11月9日-10日（新潟県立自然科学館／新潟）

■受賞歴

犬飼博士/安藤僚子「スポーツタイムマシン」
第17回文化庁メディア芸術祭エンターテイメント部門　優秀賞受賞

YCAM InterLab+安藤洋子　共同研究開発プロジェクト　「Reactor for Awareness in Motion」
第17回文化庁メディア芸術祭アート部門　審査委員会推薦作品
2014年グッドデザイン賞　グッドデザイン賞受賞

子どもたちが創造する屋外メディア公園「コロガルバビリオン」
第17回文化庁メディア芸術祭アート部門エンターテイメント部門　審査委員会推薦作品

メディアアートセンターから提案する新しい学び場環境「コロガル公園」シリーズ
2014年グッドデザイン賞　グッドデザイン賞受賞

子どもたちが創造する屋外メディア公園「コロガルバビリオン」
第8回キッズデザイン賞　審査委員長特別賞受賞

平成26年度
山口情報芸術センター事業報告書

山口情報芸術センター
Yamaguchi Center for Arts and Media

〒753-0075 山口市中園町7-7
TEL : 083-901-2222 FAX : 083-901-2216
e-mail : information@ycam.jp
http://www.ycam.jp

［発行］平成27年9月

公益財団法人 山口市文化振興財団
Yamaguchi City Foundation for Cultural Promotion

〒753-0075 山口市中園町7-7
TEL : 083-901-2222 FAX : 083-901-2216
e-mail : zaidan-info@ycfcp.or.jp
http://www.ycfcp.or.jp/